

## 水産業強化支援事業事後評価報告書

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県農林水産部水産振興課</li> <li>・岩手県沿岸広域振興局水産部</li> <li>宮古水産振興センター</li> </ul>
政策目的	水産資源の持続的な利用及び管理の推進	
政策目標	資源増養殖目標	31-10
事業実施主体	重茂漁業協同組合	
実施地区名	岩手県宮古市重茂地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和元年度～令和2年度	令和5年度
交付金額	68,876千円	
事業計画の内容	飼育池 15m×2m×10 面再築工事、外構工事、さけ親魚捕獲施設、自動給水装置取替一式	
評価	成果目標	サケ稚魚放流尾数
	現状値	(令和5年度末) サケ稚魚 1,385千尾放流
	目標値	(令和5年度末) サケ稚魚 17,000千尾放流
	(1) 現状値の説明	令和元年10月の台風19号で被災したさけ・ます種苗生産施設の再整備を実施することで、サケ資源の造成、定置網など沿岸サケ漁獲及び河川遡上尾数の向上と漁協経営の安定化を図ったが、親鮭の河川遡上尾数の大幅な減少により、令和5年度末時点での放流数は、地場産稚魚17万5千尾と北海道・秋田県からの移入卵の稚魚121万尾を合わせた138万5千尾（達成率8%）となり、成果目標は達成されなかった。
	(2) 地域への経済効果（ハード事業のみ）	ふ化場で放流したサケ稚魚は、4～5年後に放流した河川に回帰し、河口近隣の定置網で漁獲され、産地魚市場への水揚げされた後に地域の水産加工業者により仕入れ及び加工販売されている。このため、本事業は地域の水産業、水産加工業等の維持・発展に寄与している。
	(3) 所見	親鮭の河川遡上尾数の大幅な減少により、北海道と秋田県からの種卵の移入を積極的に行ったが、サケ稚魚生産数は目標を大きく下回った。今後、岩手県、宮古市及び関係機関と連携して目標の達成に向けて鋭意努力を継続する必要がある。
	(4) 評価機関の意見等	
	今後の改善方法等に関する分析	今後も稚魚生産に使用する親魚の確保が困難な状況が続くと考えられるため、海産親魚の使用と岩手県、宮古市及び関係機関と連携した地区外からの種卵移入・確保を強化し、回帰率の向上を図る必要がある。また、令和4年度から開始した『サケふ化場再編マスタープラン（さけふ化場再編計画）』に従い、大型で強靱な稚魚の生産による資源の回復と、ふ化場の再編によるふ化放流事業の収支の適正化に取り組むこととする。

別表（別記様式第9号関係）

水産業強化支援事業事後評価報告書

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県農林水産部水産振興課</li> <li>・岩手県沿岸広域振興局水産部 宮古水産振興センター</li> </ul>
政策目的	水産資源の持続的な利用及び管理の推進	
政策目標	資源増養殖目標	31-11
事業実施主体	田老町漁業協同組合	
実施地区名	岩手県宮古市田老地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和元年度	令和5年度
交付金額	2,875千円	
事業計画の内容	サケ親魚捕獲施設の整備	
評価結果	成果目標	サケ種卵 17,575,000 粒採卵
	現状値	(令和5年度末) 327,000 粒採卵
	目標値	(令和5年度末) 17,575,000 粒採卵
	(1) 現状値の説明	<p>岩手県内の河川で捕獲したサケの尾数は平成30年で岩手県全体433,703尾、撰待川13,386尾だった。海水温の上昇に伴いサケの来遊数が激減し、令和3年には県全体で39,772尾、令和4年には49,486尾となり、目標年である令和5年は県全体14,933尾と平成30年と比較して3.47%、撰待川においては360尾と平成30年と比較して2.69%となった。</p> <p>サケ種卵の採卵数も来遊数の減少に対し、令和5年の実績で327,000粒と、目標を大きく下回った。</p>
	(2) 地域への経済効果 (ハード事業のみ)	サケは漁業関係者はもちろんのこと、流通業者、加工業者、販売業者等地域全体に大きな経済効果をもたらす。採卵数が目標値を大きく下回ってしまったことは地域経済にマイナスの影響を与えるものと思われる。
(3) 所見	令和3年以降全国的にサケが記録的な不漁となっているが、岩手県沿岸は資源量の落ち込みが顕著であり、令和5年に岩手県沿岸へ来遊した尾数は記録的不漁となった令和4年と比較しても26%程度と危機的状況に陥った。採卵を実施したくてもサケが遡上して来ないので採卵できず、使用できるサケは全て採卵したものの目標を大きく下回ってしまった。サケ資源が激減したことの原因究明と対策が求められる。	
(4) 評価機関の意見等		
今後の改善方向等に関する分析	サケ資源そのものを増やさなければ採卵数を増やすことはできないので、短い期間で改善することは不可能である。今後、稚魚をできるだけ大きく育てて放流することや、海水温が上昇する前に放流すること、サケの遊泳力を向上させる餌を積極的に導入するなど、撰待川に回帰するサケの尾数を増やす努力を積み重ね、長期的にサケ資源を回復させて採卵数を確保する事が必要である。	

## 水産業強化支援事業事後評価報告書

・岩手県農林水産部水産振興課  
 ・岩手県沿岸広域振興局水産部  
 宮古水産振興センター

政策目的	水産資源の持続的な利用及び管理の推進	
政策目標	経営構造改善目標	31-12
事業実施主体	重茂漁業協同組合	
実施地区名	岩手県宮古市重茂地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和元～2年度	令和5年度
交付金額	66,779千円	
事業計画の内容	加工排水処理施設（197.50 m <sup>2</sup> ）、原水ポンプ槽（11.95 m <sup>2</sup> ）、受水槽（25.00 m <sup>2</sup> ）、給水ポンプ室（4.00 m <sup>2</sup> ）、排水ポンプ室（6.25 m <sup>2</sup> ）、給水配水設備（150φ）一式	
評価	成果目標	年間廃水処理量
	現状値	（令和5年度末）22,880 t／年
	目標値	（令和5年度末）22,000 t／年
	(1) 現状値の説明	令和元年10月の台風19号で被災した水産廃棄物等処理施設（浄化槽施設・海水取水配管）が再整備されたことで、漁業者、組合員世帯の所得向上と加工部門の業績を継続し更に販路拡大が図られ、成果目標が達成された。
	(2) 地域への経済効果（ハード事業のみ）	本施設が整備されたことで、加工処理施設（海洋冷食工場）における養殖わかめ等の加工時の廃水が適正に浄化され、安定した地域水産物の買取りが可能となり、地域の関係漁業者の収入向上と雇用の場の創出に寄与している。
	(3) 所見	目標は達成され、引き続き整備目的に沿った施設の利用により、地域漁業者の所得向上が期待される。
	(4) 評価機関の意見等	
	今後の改善方法等に関する分析	今回再整備した水産廃棄物等処理施設について、適切に施設の維持管理を実施し、引き続き地域水産業の発展に取り組むこととする。

水産業強化支援事業事後評価報告書

・岩手県農林水産部水産振興課  
 ・岩手県沿岸広域振興局水産部  
 宮古水産振興センター

政策目的	水産資源の持続的な利用及び管理の推進	
政策目標	経営構造改善目標	31-13
事業実施主体	重茂漁業協同組合	
実施地区名	岩手県宮古市重茂地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和元～2年度	令和5年度
交付金額	4,000千円	
事業計画の内容	空調設備再整備：パッケージエアコン5台、除湿機1台	
評価	成果目標	施設利用日数
	現状値	(令和5年度末) 242日/年
	目標値	(令和5年度末) 255日/年
	(1) 現状値の説明	令和元年10月の台風19号で被災した水産物荷捌施設（空調設備）が再整備されたことで、地域水産物の安定した集荷、保管及び品質保持が図られ、成果目標は概ね達成された。
	(2) 地域への経済効果（ハード事業のみ）	本施設が整備されたことで、水産物荷捌施設における地域水産物（養殖わかめ等の受託販売品）の集荷、保管及び品質保持が可能となり、地域の関係漁業者の収入向上に寄与している。
(3) 所見	目標は概ね達成され、引き続き整備目的に沿った施設の利用により、地域漁業者の所得向上が期待される。	
(4) 評価機関の意見等		
今後の改善方法等に関する分析	今回再整備した水産物荷捌施設について、適切に施設の維持管理を実施し、引き続き地域水産業の発展に取り組むこととする。	

## 水産業強化支援事業事後評価報告書

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県農林水産部水産振興課</li> <li>・岩手県沿岸広域振興局水産部 宮古水産振興センター</li> </ul>
政策目的	水産業経営の強化	
政策目標	経営構造改善目標	31-14
事業実施主体	宮古市	
実施地区名	田老地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和元～2年度	令和5年度
交付金額	4,944千円	
事業計画の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化粧石膏ボード間仕切り交換修繕 養殖漁業者用施設 927 m<sup>2</sup> 共用施設 10.8 m<sup>2</sup></li> <li>・床修繕 共用施設 66.22 m<sup>2</sup></li> <li>・便所建具修繕 一式</li> <li>・浄化槽設備修繕 一式</li> </ul>	
評価結果	成果目標	年間利用日数
	現状値	(令和5年度末) 365日
	目標値	(令和5年度末) 365日
	(1) 現状値の説明	令和元年台風19号で被災した田老川向地区共同作業保管施設が復旧整備されたことで、被災前と同様に養殖漁業者が利用している。
	(2) 地域への経済効果（ハード事業のみ）	本施設が整備されたことで、被災前と同様に年間施設利用日数を維持しており、養殖漁業者の生産意欲の向上に寄与している。
	(3) 所見	目標は達成されている。引き続き整備目標に沿った施設の利用を図る。
(4) 評価機関の意見等		
今後の改善方向等に関する分析	復旧整備した施設については、適切な維持管理により利用日数を維持する。	

水産業強化支援事業事後評価報告書

・岩手県農林水産部水産振興課  
 ・岩手県沿岸広域振興局水産部大船渡水産振興センター

政策目的	水産業経営の強化	
政策目標	経営構造改善目標	31-15
事業実施主体	吉浜漁業協同組合	
実施地区名	吉浜地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和元～2年度	令和5年度
交付金額	7,500千円	
事業計画の内容	(ハード事業) 漁業共同利用施設(作業保管移設)の整備 面積97.2㎡ 木造平屋建、建具（引分戸2箇所、片開戸1箇所）、外構工事（場内敷砂利）等	
評価	成果目標	作業保管施設の年間利用日数
	現状値	(令和5年度末) 366日
	目標値	(令和5年度末) 366日
	(1) 現状値の説明	ホタテ稚貝選別機、ホタテ穴あけ機、ワカメボイル釜、ホタテカッター、温湯機の保管場所として周年(令和5年度は366日)にわたり使用されている。(作業保管施設の利用実績を添付)
	(2) 地域への経済効果(ハード事業のみ)	ホタテガイやワカメの養殖が盛んな吉浜漁協吉浜地区において、生産規模の拡大や生産性の向上を支える機械等の適切な保管が可能となり、当該機器利用期間の長期化によるコスト削減を始め、養殖生産の維持・漁家所得の維持に貢献している。(吉浜漁協養殖漁業所得を添付)
	(3) 資源管理の取組状況等(ハード事業のみ)	ホタテガイやワカメ養殖に使用する機械等の保管を目的として整備した作業保管施設であり、資源管理に係る直接的な取組は行っていない。
	(4) 所見	ホタテガイやワカメ養殖に使用する機械等が適正に保管されるなど施設整備目的に合致した利用となっていることから、特段の所見はない。
(5) 評価機関の意見等	評価機関等の評価は受けていない。	
今後の改善方向等に関する分析	整備した施設は、成果目標を達成するなど有効に利用されていることから、引き続き、吉浜漁協の養殖ホタテガイやワカメの生産量維持に資する施設として活用されることを期待する。	

水産業強化支援事業事後評価報告書

・岩手県農林水産部水産振興課  
 ・岩手県沿岸広域振興局水産部大船渡水産振興センター

政策目的	水産業経営の強化	
政策目標	経営構造改善目標	31-16
事業実施主体	吉浜漁業協同組合	
実施地区名	吉浜地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和元～2年度	令和5年度
交付金額	6,400千円	
事業計画の内容	(ハード事業) 漁業共同利用施設(共同利用機器)の整備 ほたて洋上クリーナー2台	
評価	成果目標	ほたて洋上クリーナーによる作業時間短縮(整備後の作業時間)
	現状値	(令和5年度末) 17時間/人
	目標値	(令和5年度末) 19時間/人
	(1) 現状値の説明	ほたて洋上クリーナーの導入により令和5年度の1人当たりの作業時間は17時間となり、整備前208時間から191時間の削減となっている。目標削減時間189時間(208時間-19時間)に対する達成率は101%となっている。(ほたて洋上クリーナーの時間計算を添付)
	(2) 地域への経済効果 (ハード事業のみ)	ホタテガイ養殖が盛んな吉浜漁協吉浜地区において、生産量の維持増大のためには、洋上における付着物除去が必須であり、当該機器導入により洋上作業の軽労化が図られるとともに、削減された時間を他の作業へ振り分けることで、近年の海水温の高温化の中、生産量の維持、養殖漁家所得の維持にも貢献している。(吉浜漁協ホタテガイ生産量及び養殖漁業所得を添付)
	(3) 資源管理の取組状況等 (ハード事業のみ)	ホタテガイ養殖に使用する機器を整備したものであり、資源管理に関係する直接的な取組は行っていない。
	(4) 所見	ホタテガイ養殖作業の軽労化及び生産量の維持に不可欠な機器を整備し有効に活用するとともに、同時に整備した作業保管施設において適切に保管管理されていることから、特段の所見はない。
	(5) 評価機関の意見等	評価機関等の評価は受けていない。
今後の改善方向等に関する分析	整備した機器は、成果目標を達成するなど有効に利用されていることから、引き続き、吉浜漁協の養殖ホタテガイの生産量維持に資する施設として活用されることを期待する。	

水産業強化支援事業事後評価報告書

岩手県農林水産部漁港漁村課

政策目的	漁港施設の高度化	
政策目標	漁港機能高度化目標	整理番号 2-3
事業実施主体	岩手県	
実施地区名	岩手県宮古市田老地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	平成30年度～令和2年度	令和5年度
交付金額	18,205,560円	
事業計画の内容	防風柵L=55m、用地舗装A=1000m <sup>2</sup>	
評価	成果目標	作業労働時間の短縮（1回当たり5分の削減）
	現状値	作業労働時間 15分/隻・回（令和5年度末時点）
	目標値	作業労働時間 15分/隻・回（令和5年度末）
	(1) 現状値の説明	用地の舗装により、漁具に付着した土砂清掃等の作業労働時間の短縮が図られ、漁業作業の効率化につながった。 当初の計画どおりに施設が利用されており目標値を達成した。（達成率100%）
	(2) 地域への経済効果	本事業で用地及び防風柵の整備がなされたことにより、漁業作業の軽労化と強風時における漁船の接触等の軽減が図られるとともに、漁業作業の効率化に係る人的コスト等削減の経済効果が得られた。
	(3) 所見	用地の舗装及び防風柵の整備により、漁業作業の効率化及び漁船の維持管理費用の負担軽減が図られている。 目標を達成しており、今後も施設が有効に利用されることが期待される。
(4) 評価機関の意見等		
今後の改善方向等に関する分析		

水産業強化支援事業事後評価報告書

岩手県農林水産部漁港漁村課

政策目的	漁港機能の高度化	
政策目標	漁港機能高度化目標	整理番号 2-4
事業実施主体	岩手県宮古市	
実施地区名	岩手県宮古市小堀内地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和元年度～令和2年度	令和5年度
交付金額	7,550,000円	
事業計画の内容	船揚場（滑り材設置）L=84.7m	
評価	成果目標	船揚場の整備に伴う漁船上下架作業時間の削減（1回当たり10分の削減）
	現状値	上下架作業時間 10分/隻・回（令和5年度末時点）
	目標値	上下架作業時間 10分/隻・回（令和5年度末）
	（1）現状値の説明	船揚場の整備により、漁船の上下架時間の短縮が図られ、漁業作業の効率化につながった。 また、滑り材の設置により、足を滑らせることが少なくなり安全性が向上した。 当初の計画通りに施設が利用されており、目標値通りになった。（達成率100%）
	（2）地域への経済効果	本事業で船揚場が整備されたことにより、漁業作業の軽減化が図られるとともに、漁業作業の効率化に係る人的コストの削減等の経済効果が得られた。
	（3）所見	船揚場の整備により、漁業活動の効率化及び安全性の向上が図られている。 目標を達成しており、今後も施設が有効に利用されることが期待される。
	（4）評価機関の意見等	
	今後の改善方向等に関する分析	

水産業強化支援事業事後評価報告書

岩手県農林水産部漁港漁村課

政策目的	漁港施設の高度化	
政策目標	漁港機能高度化目標	
事業実施主体	岩手県宮古市	
実施地区名	岩手県宮古市日出島地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和3年度	令和5年度
交付金額	9,900,000円	
事業計画の内容	船揚場(滑り材設置)L=55.3m	
評価	成果目標	船揚場の整備に伴う漁船上下架作業時間の削減(1回当たり3分の削減)
	現状値	上下架作業時間 7分/隻・回(令和5年度末時点)
	目標値	上下架作業時間 7分/隻・回(令和5年度)
	(1) 現状値の説明	船揚場の整備により、漁船の上下架時間の短縮が図られ、漁業作業の効率化につながった。 また、滑り材の設置により、足を滑らせることが少なくなり安全性が向上した。 当初の計画どおりに施設が利用されており、目標値通りになった。 (達成率100%)
	(2) 地域への経済効果	本事業で船揚場が整備されたことにより、漁業作業の軽減化が図られるとともに、漁業作業の効率化に係る人的コストの削減等の経済効果が得られた。
	(3) 所見	船揚場の整備により、漁業作業の効率化及び安全性の向上が図られている。 目標を達成しており、今後も施設が有効に利用されることが期待される。
(4) 評価機関の意見等		
今後の改善方向等に関する分析		